

# お伊勢参りと熊野詣

## — 聖地と霊場をひと巡り —

### NPO 法人「奈良まほろばソムリエの会」専務理事 奈良のうまいもの大使 鉄田憲男 氏

コロナ対策に留意し、定例講演会を9月6日に開催。第1例会は、NPO 法人「奈良まほろばソムリエの会」専務理事・奈良のうまいもの大使 鉄田憲男氏をお招きした。鉄田氏は「戦乱の世が終わり江戸時代に入ると、人々は全国から、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が祀られた伊勢神宮に向かい現世の幸せを祈り、次に来世の安寧を欲して熊野に向かった」とソムリエならではの豊富な知識と経験を基に多方面から語られた。

#### 【伊勢神宮】

西行が「何事のおはしますかはしらねどもかたじけなさに涙こぼるる」と詠んだように、静かで、ありがたい気持ちになる場所である。「お伊勢さん」と親しまれる伊勢神宮は、正式名称を「神宮（じんぐう）」といい、「皇大（こうたい）神宮」（内宮）と「豊受（とようけ）大神宮」（外宮）の二所の正宮を中心に、付属する宮社125社で成り立ち、20年に一度、式年遷宮がある。参拝は、先に外宮、次に内宮にお参りするよう天照大御神からご神託があったと言われている。

#### 【内宮（ないくう）】

天照大御神を祀り、相殿（あいどの）に天手力男神（あめのたちからおのかみ＝天岩戸をこじ開けた力持ち）、万幡豊秋津姫命（よろずはたとよあきつひめのみこと＝ニニギノミコトの母神）を祀る。ご神体は八咫鏡（やたのかがみ）。五十鈴川の川上に、森に囲まれ2000年の時を超えて古代のたたずまいを今日に伝えており、清流で有名な五十鈴川御手洗場で心身を清めてからお参りする。

#### 【外宮（げくう）】

天照大御神の食事を司る神の豊受大神を祀り、相殿に御伴神（みとものかみ）3座を祀り、内宮創建から500年後に山田原に迎えられた。五穀豊穰を願うため、大勢がお参りするようになった。御饌殿（みけでん）では、朝夕、天照大御神の大御饌（おおみけ）を奉る。

#### 【主要な8つの宮社】

伊勢神宮には125社の宮社が鎮座し、141座の神々が祀られているが、主要な8つの宮社は1～2日で可能なのでは是非皆様にもお参り頂きたい。①「荒祭宮（あらまつりのみや）」②

「風日祈社（かざひのみのみや）」③

「月讀宮（つきよみのみや）」④「倭姫宮（やまとひめのみや）」⑤「多賀宮（たかのみや）」⑥

「土宮（つちのみや）」⑦「風宮（かぜのみや）」⑧「月夜見宮（つきよみや）」

#### 【神棚と御祓箱（おはらえばこ）】

年間1500の祭祀が行われる伊勢神宮。現在の祭主は黒田清子さまで、古くは「私幣禁断」という制度のもと一般の奉幣や参詣は禁止されていた。そんな中でも、伊勢神宮は民衆の崇敬を受け、日本各地から大勢が訪れた。伊勢へと人々を誘ったのは、今の旅行エージェントのような御師（おんし）で、自邸に宿泊させ、祈禱を行い、神楽を奏し、神宮の案内役も務めた。諸国を巡り、お札を御祓箱に入れて配り、崇敬者達は、畏れ多いので高いところに棚を作り安置した（＝神棚の始まり）。新しい御祓箱が来ると古いものは不



要になる事から、不要なものを捨てる事を「おはらいばこ」と言うようになった。江戸中期には「御蔭参り」といって、庶民の熱狂的な参宮が60年に一度の周期で繰り返された。

#### 【伊勢斎王・斎宮】

天皇の代替わりごとに占いで選ばれ、伊勢神宮に仕える未婚の皇女、それが斎王であり、その住まいが斎宮（さいくう）で、飛鳥時代から鎌倉時代まで続いた。斎王は天照大御神のサインを受け取るセンサーの様な重要な役割を担っていた。斎宮跡は甲子園球場35個分の広大なものである。皆さんも、近鉄「斎宮」駅で降り、「さいくう平安の杜」「斎宮歴史博物館」へ出向いて当時の空気を感じて頂きたい。

#### 【熊野信仰】

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、奈良県、和歌山県、三重県にまたがり、3つの霊場（吉野・大峯、熊野三山、高野山）と参詣道（熊野参詣道、大峯奥駈道、高野参詣

道）を登録対象とする世界遺産である。「熊野信仰」は、和歌山の熊野を中心とした民族的信仰で、平安時代初期、熊野坐神社（本宮）、熊野速玉大社（新宮）が成立。11世紀頃、熊野那智神社が加わり「熊野三所権現」成立後、霊威が高まり、三山の結束が強化された。熊野三山の主神は、やがて日本神話の有名な神々に変わっていった。

#### 【熊野本宮大社（本宮）】

（主神）家津美御子大神（けつみみこのおおかみ）⇔スサノオ。本地仏は阿弥陀如来。院政期（1086～1179）白河上皇の熊野詣以降信仰が盛んになり、「蟻の熊野詣」と呼ばれ、御師により全国に広められた。熊野本宮温泉郷とセットでのお参りがお勧め。

#### 【熊野速玉大社（新宮）】

（主神）熊野速玉大神⇔イザナキ。本地仏は薬師如来。境内の神宝館に、装束72点の国宝を含め古神宝類が多く所蔵されている。天然記念物のナギの老樹が有名。

#### 【熊野那智大社】

（主神）熊野夫須美（ふすみ）大神⇔イザナミ。本地仏は千手観音。高さ133mの那智の滝を神とする自然崇拜より発した社とみられる。

#### 【補陀落渡海（ふだらくとかい）信仰】

補陀洛山寺（和歌山県那智勝浦町）は補陀落渡海信仰の根本道場。補陀落渡海とは、仏教で補陀落浄土を目指して海を渡る捨身の行の一つで、30日分の食料と灯油を屋形船（いわば棺桶船）に積み外から釘で密閉されて船出する。「捨身の行」という通り、生きて帰ることはできない。井上靖の「補陀落渡海記」には「補陀落寺住職には61歳11月になれば補陀落渡海に出る習わしがある。室町時代、61歳になった住職金光（こんこう）坊の、死に向かう恐怖と葛藤」が記されている。しかし、金光坊の渡海後は、物故した住職の遺体が、補陀落渡海と称されて海に流される習慣となった。